



あるある  
マンガでよむ



# 外国につながる生徒の 高校進学サポートガイド

困ったときの10のヒント



## このガイドブックを読んでもくださる皆さんへ

日本における在留外国人は200万人を超え、定住化が進んでいます。神奈川県にも、約160の国・地域の約16万人の外国人が暮らしています。

2012年の文部科学省の調査によると、神奈川県内の公立小・中・高等学校には、3,634人の日本語指導が必要な児童生徒が在籍しています。これは、愛知県に次いで2番目の多さです。また、近年は、外国から来日する子どもだけでなく、日本生まれの外国人の子どもや国際結婚の子どもが増えており、その中には、日本国籍をもつ子どももいます。

このような「外国につながる子ども」たちが日本社会で育ち、将来を切りひらいていく上で、大きな分岐点となるのが高校進学ですが、進学に関する情報不足や生まれ育つ環境など、子どもの努力だけでは解決できないさまざまな課題があります。

このガイドブックでは、高校進学の支援に焦点をあて、先生たちにとって身近な疑問や悩みについて、その背景や関わり方のヒントを紹介しています。制作には、県内で外国人生徒の支援に長年関わってきた先生方にご協力をいただき、事例や支援のための情報を提供していただきました。また、高校進学をはたした体験談も盛り込みました。

外国につながる子どもたちの学校での受入れ体制や指導体制がまだ十分に整っていない中、先生や地域の支援者の方々子どもたちに寄り添い、日々奮闘しているのが現状ではないでしょうか。このリーフレットで少しでもヒントが見つかり、支援の新たな展開につながれば幸いです。

2014年3月

(公財)かながわ国際交流財団



# C O N T E N T S

## 家庭環境や言語環境、文化のちがい

日本語ぺらぺらなのに、 なんでテストはできないの? .....	04
こんな日に学校休むって!?	06

## 外国人保護者への情報提供とコミュニケーション

「ダイジョウブ」は大丈夫じゃない! .....	08
大いなる誤解 .....	10
「定時制!? ムリムリムリ」 .....	12

## 利用できる制度や地域リソース

使わなくちゃ損! 受検についての特別な制度 .....	16
中3夏、日本語ゼロの転入生!?	18

## 外国につながる生徒への進路指導のポイント

志望校調査票のハードル .....	20
「面接シートに書くことない…」 .....	22
「働く」「帰国」なら、 進路指導はしなくていい? .....	24

外国につながる生徒の 支援・お助けリソースガイド .....	26
-----------------------------------	----

# 日本語ぺらぺらなのに、 なんでテストはできないの？



## 外国につながる子どもの言語環境と学力

外国につながる子どもの日本語力は、来日時期、在日年数、家庭での言語環境などによりさまざまです。日本生まれの場合でも、成育環境によっては日本語や学習でつまずきが見られることがあります。

言葉には、日常的に使っている生活言語と、読み書きなど教科書や授業内容を理解するための学習言語があります。学習言語を習得するには、日常生活では出てこない語彙を学び、積み重ねていく必要があります。少なくとも5～7年がかかるといわれています。外国につながる子どもの場合、たとえば日本語の本や新聞などが身近にないことや、教科書に出てくる漢字を教えてくれる人がそばにいないことなどが学習言語の習得を困難にしている面があります。

また、日本の学校文化になじめないことや、母国での学習のやり方のちがいに戸惑うことも考えられます。授業についていけない、テストで点がとれないことの背景に、個人の能力や努力だけでは解決できない事情があるかもしれません。



## 日本語・学習支援のイ・ロ・ハ

子どもに教えていて「わかった?」「質問はある?」と聞くと、「わかった」「大丈夫です」と答えが返ってくるので安心してしていると、実はほとんど理解していなかったということがよくあります。子どもそれぞれに何がわからないのが、日本語の理解を含めてアセスメント（状況把握）することが第一です。漢字を使わないいわゆる非漢字圏の国・地域につながる子どもの場合、言葉を音だけで理解し、漢字との結びつきがあいまいになっているケースをよく見かけます。会話する機会をつくり、本人の知っている語彙で話をしてもらい、それを支援者が文字化する聞き書きが効果的です。そこから語彙の漢字練習に結びつけ、作文につなげることができます。

漢字のルビ振りを、「全教員でやっていこう」と決めて実施している学校もあります。漢字圏の子どもでも、濁音や促音などがうまく使えない場合が多いので、ルビで確認させる必要があります。ルビがついていれば、自分で（電子）辞書などで母語の意味を調べることができます。自分で単語帳をつくって活用し、みるみる学力がついた生徒もいます。ただし、ルビが振ってあるとそれにだけ目がいってしまうことがあるので、何度も出てくる言葉には最初だけルビ振りをするなど工夫して、段階的に減らしていき、時々ディクテーション（聞いたことを書き取る）のテストをするといいでしょ。

学習面では大胆に基礎に戻って、ワンポイントで復習することも大切です。算数・数学では、九九などの計算の基礎が身につけていないケースがよくあります。異分母の分数計算では、①通分、②一分数化、③分子の計算、④約分の判断と4つのステップのどこかでつまづいているので、各ステップで必要な計算（加減乗除）を少し復習するとスーッと理解できることも多いです。「実は7の段の九九がわかってなかった!」ということもありました。

中学生にもなると本人のプライドから自分がよくわかっていないことを見せまいとして、小学校レベルの復習を嫌がる傾向が出てきます。そんな場合は、放課後などに学習ボランティアの個別支援の場を設けたり、地域の学習支援教室につなげたりして、「勉強がわかった」という体験を積み重ねることが学び直しの近道です。

# こんな日に学校休むって!?



## 外国につながる子どもの家庭環境・文化

外国につながる子どもは、言語や生活の環境も多様です。家庭での子どもの役割などの家族観や子ども観、保護者の教育観のちがいなどもかれらの生活に大きく影響しています。家族や親戚が少ない日本で、友人や同胞とも助け合って暮らし、子どもであっても家族の中でさまざまな役割を担っていることがあります。

生徒との関わりの中で、「あれ? どうしたのかな?」と覚えることがあれば、ぜひ生徒や保護者と話す場をもってみましょう。自分とはちがう習慣や考え方に驚くことがあるかもしれませんが、疑問や誤解がとけるかもしれません。先生や支援者に話を聞いてもらうことや、自分を気にかけてくれている人の存在が子どもたちの支えになります。



## じっくり話を聞くことから始めた支援

小学3年生で来日したチャンさんは、入学式のと時からサイズの合わないお古の制服を着ていました。同じマンションの同級生は、夜中にチャンさんの保護者が叱っているような声と、チャンさんの泣く声を何度も聞きました。

「僕だけ、いろんな家の仕事をさせられるんだ。早く家を出たい」チャンさんは、長期休みや土日は親戚の料理店で皿洗いをしています。一日中立ち通しなので、家に帰るとぐったりとして、寝てしまいます。

国際教室の取り出し授業は、彼の不満を丁寧に聞くことから始まりました。

「じゃあ、チャンさんの理想の生活ってなに？」「う～ん、朝8時ぐらいに家を出て、皿洗いじゃない仕事をして、夕方6時ぐらいに帰って、それから誰にもじゃまされず、怒られずに、寝るまで自由に過ごせたらいいなあ」「きっとできるよ。その生活」チャンさんは中学2年生の終わり頃から、少しずつ穏やかな態度で話ができるようになっていきました。

今、チャンさんは毎日楽しく、高校へ通っています。



## 活用しようよ 通訳制度

両親は外国人だけど日本生まれのケントくん、日本語はぺらぺらなのに勉強が手につかない様子。困った担任が保護者面談をしようと彼に伝えました。「お母さん、通訳がいた方がいいよね」「ううん、ボクがするからいらないよ。いつも通訳しているから…」「そうか、じゃ頼んだよ」

いよいよ面談で、「ケントくん、最近勉強がわからないようで、宿題も提出していないし…」と担任が話すと、ケントくんは、お母さんに一言二言訳して終わり。担任は「本当に伝わっているのかな??」と、心配になりました。

学校や病院での通訳などを子どもにさせることは、内容的にも難しく、精神的な負担は想像以上です。たとえば、自分自身の成績がよくないことなどを、親に心配かけまいと、ぼかして通訳したりします。子どもに母語が十分身につけていない場合もあります。

子どもの状況を正確に伝え、学校と家庭の協力関係をつくるために積極的に通訳制度を利用しましょう。（26ページ参照）

# 「ダイジョウブ」は 大丈夫じゃない!



## 理解するのが難しい入試制度

「高校に入るために試験があるの!? 申込書を書くだけでいいと思っていた」「入試は中学校で受けるんじゃないんですか?」これらは、実際に聞いた言葉です。外国人保護者にとって、自分が経験していない日本の学校教育制度や高校入試制度を理解するのはとても難しいことで、高校入試にまつわる用語は日常生活で使わない言葉の連続です。通訳を介して「入試」と伝えても、自分の国の「入試」のしくみを連想することがあるので、用語をただ訳すだけでなく、その内容を説明して伝える工夫が必要です。また、なにが理解できていないのかわからず、とりあえず「はい、わかりました」「大丈夫です」と言っていることもあります。

手続きなどは間違うと取り返しがつかない場合があるので、これまで通訳を頼んだことがなくても、進路についての説明や3年生の面談では、誤解を避けるためにも通訳を依頼し、保護者の理解を確認しながら話を進めましょう。

### 外国につながる生徒向けガイドブックやガイダンス

外国につながる生徒にとってどのような制度があるのか、どの高校なら入学後のサポートがあるかなどの情報を手に入れることは、保護者にとっても中学校の先生にとっても容易ではありません。

神奈川県では、教育委員会とNPOが「公立高校入学のためのガイドブック」（全10言語 16ページ参照）を作成し、毎年7月はじめに県内の全中学校に必要部数を送付しています。県教育委員会のホームページにも掲載されています。日本語と翻訳言語が見開きで載っているので、面談の時に指でさしながら説明すると効果的です。

毎年秋（9・10月）には、県内各地で「日本語を母語としない人たちのための高校進学ガイダンス」（以下、ガイダンス）が開かれます。各高校でも学校説明会や学校見学会が行われていますが、ガイダンスには次のような利点があります。

- ①多言語で対応している。通訳がついたり、翻訳資料を用いて説明される。
- ②外国につながる高校生や大学生の体験談を聞くことができ、高校選びの参考となる。中学生にとっては「高校に入りたい」という動機づけになる。
- ③外国につながる生徒が多く在籍する高校の先生がたくさん参加し、個別相談に応じてくれる。
- ④県教育委員会の入試担当者が相談に応じてくれ、志願資格についても相談ができる。
- ⑤外国人教育支援のNPOが、学校選択・学費・学習方法など、きめの細かい相談に応じてくれる。



個別相談を受ける生徒

あるガイダンス会場の入口で「先生、何時に終わるの？ 私、早く帰りたい」「せっかく来たんだから、高校のこと聞いていこう」と、中学校の先生らしき人と中学生の会話。ガイダンスも終わり、参加者が三三五五帰る中、最後まで相談コーナーで話を聞いているのはなんとあの2人。「ガイダンスどうだった？」と聞いてみると「私、今日で人生変わった！」とうれしそうな顔。

翌年、その中学校の先生に聞いてみると…「彼女、無事高校に入りました。とても元気で楽しいと言ってます」という言葉が返ってきました。

# 大いなる誤解



## 婉曲表現・あいまい表現は誤解をまねく

進路に関する三者面談では、難解な入試制度の説明だけでなく、成績や志望校を話し合う場面などで、ストレートには言いにくい内容のやり取りが必要となります。その際、日本語を母語としない外国人保護者には、婉曲な言い方や二重否定のようなあいまい表現は、誤解をまねくことがあります。また、コミュニケーションのしかたや文化のちがいで、伝わり方や受け取り方が変わってしまうこともあります。たとえば日本では、まずほめて、よいことを伝えたあとに、“そ〜っと”本音を切り出すことがあります。はじめから本論を話す文化もあります。また、遠回しな表現のために、保護者が生徒の意思や成績からかけ離れた希望を抱いてしまう場合もあります。

生徒や保護者の気持ちに配慮しながらも、日常会話で使う言葉で明確に伝えることが理解につながります。リーフレット「やさしい日本語でコミュニケーション」では、わかりやすく伝えるポイントを紹介しています。(27ページ参照)



## 通訳を介し、数字などで具体的に説明

外国人生徒や保護者との進路面談は、日本語での面談が難しい場合には事前に通訳を依頼します。通訳の分、いつもの倍近くの時間がかかることを考えておく必要があります。せっかく通訳を頼んだのに、面談当日、生徒や保護者が来ないということもあるので、電話連絡が可能であれば、前日に電話で再確認するのもひとつの手です。国・地域によっては、希望すれば誰でも高校に進めたり、お金を払えば高校に入れるなど、学校制度も多様です。「評定」や「併願」などの面談でよくある言葉の意味がわからない、日本の高校入試制度に関する予備知識はゼロということもよくあります。

また、進路面談では「この高校に合格するには、かなりがんばる必要がありますね（実際には難しいから無理）」というようなあいまいな表現を使うことがあります。外国人生徒や保護者は「がんばれば合格できる」と捉えかねません。言葉で伝えるだけでなく、市販の（入試）ガイドブックを使う、目で見える数値で示すなどもひとつの方法です。



## 成績アップのための具体策を助言しよう

外国では、成績表の数値は「テストの点数」のみということがよくあります。一方、日本の中学校での成績（評定）はテストの点数だけでなく、授業態度や提出物などの平常点を含んだ総合的なものであるということ、ほとんどの外国人生徒や保護者は理解していません。しかも、その成績が高校入試の可否資料となるので、日本語指導が必要な生徒の成績をどうやって上げるかが重要なポイントになります。

しかし、日本語指導が必要な生徒が定期テストで高得点を取るの、とても難しいことです。もし取り出し授業や放課後での個別指導が可能ならば、日本語指導をしながら各教科の宿題や授業内容のワーク（練習ドリルなど）に取り組ませ、それらを提出することで提出点をアップさせることもできます。ただ単純に「勉強がんばれ」ではなく、日本語がわからなくてもできることを具体的に示して、「これをがんばれ」と伝えることで、テスト以外の点数を地道に上げていくことが成績アップの近道だと思います。



## いっしょに足を運んでみたら

中学3年生のリーさんは、来日して1年たってもなかなか日本語に慣れず、お父さんは「中学卒業後、日本語学校に入れて、まず日本語を身につけてから高校受験させます」と言っていました。

私立と公立の学校制度は国によって大きく事情が異なるので、保護者のもつイメージも母国のそれに左右されます。その保護者は「私立はお金を積んだら誰でも入れる学校」という印象をもっていたようです。

リーさんとそのお父さん、教員の3人で、最初に日本語学校に見学に行き、同じ日に私立高校の文化祭に行きました。リーさんは、母国にはない文化祭という行事を見て、食べ物の模擬店や教室ごとの展示の楽しそうな様子、ダンスやバンドの舞台発表などのにぎやかな様子に驚きました。

さらに高校の先生から生徒のレベルにあわせたきめの細かい授業があること、努力次第では大学進学への道も開けることを聞いて、あきらめかけていた進学に希望をもつことができました。いちばん心配していた私立に進学した場合の学費のことも、就学支援金などの制度も含めて具体的に詳しく説明してもらい、やりくりできる範囲であることがわかりました。この日を境に、リーさん親子の私立高校に対する印象が一変しました。そこから、その学校へ入りたいと真剣に猛勉強がはじまりました。

めざましかったのは英語です。英語は中学1年生の英文法からやり直し、数カ月で入試問題に取り組めるまでになっていました。結果は見事合格。日本の高校入試制度を理解してもらうためには、実際に高校まで足を運ぶことがとても効果的です。





## チームで生徒を支える定時制

湘南高校定時制では入学後、外国につながる生徒たちに対してプレイスメントテストを実施して、取り出し授業のメンバーの選考をします。その際、本人・保護者へのヒアリングの内容も参考にします。よくあることですが、日本語で遜色なく会話をしているので、日本語で「書く」ことも十分できると思っている、ペーパー試験ではまったくできないというケースも見受けられます。3年後、かれらは進学したり、社会に出て就職したりします。かれらにとって、高校にいる3年間は、日本で生活していくのに十分な日本語教育をする最後の時間であると、私たち教員は認識しています。正確な日本語を伸ばしていく指導には、決して十分な時間ではないと思いますが、湘南高校の多文化に関わる教師はみんな、一生懸命、教えています。そして、なにより生徒たちは誠実に、勤勉に学習をして、ついてきます。日本に来て数年の生徒が在学中に日本語能力試験のN1（1級）に合格することも、決して珍しいことではなくなりました。

外国につながる生徒たちは本当に働き者です。朝、起きてアルバイト、それから学校で授業、部活をして、学校を出るのが夜の10時過ぎです。かれらにとって、アルバイトは家計を助けるため、あるいは将来の進学資金を貯めるためのものです。ただ、日本に来て数年の生徒たちには、アルバイト先を探すこと自体ハードルが高く、たいへんなことです。先日、教室で生徒が求人チラシを見せながら、「アルバイト先に電話をしたいが、電話のしかたがわからない」といいました。ここで、普通の授業の場合、先生はそのような個人的な話はあとにしようというのが一般的ですが、その日本語の先生は、いきなり電話の対応のしかたの授業に変えました。これこそが、生きた授業であると感心しました。

湘南高校定時制には生徒一人ひとりに対し、包括的に学習を支援し、丁寧に応えるチーム環境が整備されています。近年、神奈川県内の定時制から、国立大学や有名私立大学へ進学する生徒も見られるようになりました。単に大学進学というのではなく、希望の仕事に就くためにここの大学で勉強したいという明確な目標をもつ生徒が多くなりました。外国につながる生徒たちへの個別対応の取り組み、丁寧さは、定時制の強みです。

見ると聞くでは大ちがい！ どうぞいつでも見学に来てください。

## 進路指導を通じて、自信をもたせてくれた先生



私はブラジルで小学校1年を終えてから、家族4人で来日しました。来日間もない頃は習慣のちがいがから、毎日が不安とドキドキの連続でした。初めての避難訓練では大パニック。訓練という言葉を知らなかった私は、本当に地震が来たのだと思い、あまりの怖さに半泣きになりました。また、音楽クラブの演奏会で、紺色のスカートを履いてくるように言われましたが、紺色という色を聞いたことがなかった私は「コーン色」だと思い込み、母に“黄色”のスカートを探さないといけないと伝えてしまいました。幸いにも黄色のスカートは見つからず、家にあったグレーのスカートを履いて演奏会に出たこともあります。

中学は少し荒れていた学校で、経済的な理由もあり、私は高校受験をするつもりが全くありませんでした。ところが、3年の時の担任の先生はとても熱心に指導してくださり、英語が得意だった私に国際科のある高校への進学を勧めてくれました。受験の存在すら知らず、勉強もあまりやってこなかった私が進学校に合格できるとは想像ができませんでした。先生は粘り強く進学を勧め、親と話をして奨学金の手配までしてくれました。

思春期には、自分がまわりの人とちがう外国人であることが嫌になりだしたのですが、先生は面接の練習を通して、外国人で2つの文化・言葉を知っていることが私の強みだと気づかせてくれました。受験まで猛勉強をし、目指していた高校に受かることができました。私はそこで本当の意味で自分に自信をもつことができ、性格まで明るくなったと思います。

私たち外国につながる子どもは、日々学校で言葉の壁にぶつかり、習慣のちがいに戸惑いながら、自分自身と葛藤しながら生きています。日本社会はブラジルに比べ、あまり子どもをほめないと感じます。もっと子どもたちのいいところを見つけてほめてあげてください。そして外国にルーツをもっていることがいかにラッキーなことなのか気づかせてあげてほしいです。それがかれらの自尊心につながると思います。

私は励ましてくれた先生のおかげで大学まで進むことができました。あの時、先生に背中を押されていなければ今の私はいないと思っています。子どもたちの成長には待たがありません。必要な時期に必要なサポートをすれば、子どもたちはそれに応える力を秘めていると思います。

# 使わなくちゃ損！ 受験についての特別な制度



## 外国につながる生徒を対象にした制度

神奈川県公立高等学校入学者選抜では、外国につながる生徒を対象とする特別な制度があり、進路を切りひらく大きな助けとなっています。

志願資格や手続きについては、「募集案内」や「公立高校入学のためのガイドブック」でしっかりと確認するとともに、生徒それぞれに状況がちがうので、早めに県教育委員会に問い合わせや相談をしてください。

2つの冊子は、県教育委員会のホームページからダウンロードできます。

◆神奈川県公立高等学校入学者選抜制度について  
募集案内、ガイドブック、高校進学ガイダンスなどについての情報

◎ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f160600>

◆転編入学情報センター

公立高校への入学・転入学・編入学について相談ができます

TEL : 045-210-8234

## 知ってる？ 使ってる？ 特別な制度

### ①「在県外国人等特別募集」（在県枠）

外国籍または、日本国籍を取得して3年以内で、日本での在留期間が、通算3年以内の人が志願でき、公立高校10校に設置されています。「通算3年」というのは、日本にいた期間の合算で、小学校入学前に日本にいた期間は除外します。9ページのガイダンスや高校説明会にパスポートを持って行って確認してもらうことができます。

また、外国籍も日本籍も有する、いわゆる重国籍の場合も該当します。「外国籍を有する」ことを示す書類としては、パスポートが一般的ですが、出生証明書や市民権証明書などで国籍を示す国もあり、大使館で証明書を発行してくれる場合もあります。試験は英語・国語・数学の3科目で、試験問題の漢字はルビ付きです。下の③のような事前申請は必要なく、出願時に高校でパスポートなどの書類確認をします。

### ②「海外帰国生徒特別募集」（帰国枠）

志願資格は「原則として、保護者の勤務等の関係で、継続して2年以上外国に在住し、3年以内に帰国した人」となっています。海外で生まれた日本国籍の子どもや永住者の在留資格をもつ子どもなどが、保護者と一緒に来日するケースも帰国枠に該当する場合があります。

試験は3科目で、問題は一般受検と同じでルビは付いていません。ルビ付きの問題での受検を希望する場合は、第6号様式での事前申請を行います。

### ③「一般募集での特別な受検方法」（第5号様式による事前申請）

原則、日本に来て6年以内の受検生が対象で、ア. 試験問題がルビ付き イ. 試験の時間延長（1.5倍）ウ. 面接時にゆっくり、わかりやすい言葉での質問等の措置を申請できます。申請には、中学校で定期試験時にも同様の措置をとっていることが前提で、受検の際に不利にならない配慮が普段から必要です。中学から高校に事前申請が必要なので注意してください。

①②③とも多様なケースが考えられますので、県教育委員会やガイダンス等で相談することをお勧めします。



# 中3夏、日本語ゼロの 転入生!?



## 日本語ができない生徒の進路指導

日本語ができない生徒がクラスに転入してきたら、日常のコミュニケーションはもちろんのこと、その生徒の進路指導をどうすればいいのか、どんな先生でも戸惑うことでしょう。まずは、生徒と保護者との面談で、しっかり通訳を介して状況を把握し、日本の高校入試についての説明をすることが重要です。

そして、担任の先生が一人で抱えることのないように、日本語指導を依頼したり通訳派遣制度を活用したりして、学校内での支援体制をつくりましょう。地域によっては、ボランティアの学習支援教室で、放課後などに日本語や学習のサポートをしてくれるところと連携することもできます。

また、志望校を考える上では、高校に入学してからの日本語指導などの支援体制がどうなっているかも重要なポイントになります。

### ◆かながわ日本語教室・学習補習教室・母語教室マップ

◎ <http://www.kifjp.org/classroom>

● 利用できる制度や地域リソース



## 生徒の人生をひらく地域の学習支援教室

神奈川県内には、外国につながる子どものための学習支援教室が50カ所ほどあります。そのひとつが相模原で活動しているCEMLA（セムラ）です。CEMLAは「多文化学習活動センター」の略で、高校とNPOが協働して運営し、大学が場所を提供しています。対象は中学生や高校生などの若者で、日本語や教科学習支援だけでなく、同じ国にルーツにもつ者同士の出会いの場となっています。

CEMLAで学んでいた高校生はこう話していました。「日本に来たばかりの時は、友だちをつくりたくても日本語がうまく話せなくて、ずっと1人だった。将来が見えず、絶望の底にいるようだった」

そんな彼は、CEMLAでの学習を通じて少しずつ自信をつけ、高校での成績も上がり、見事大学の工学部に合格しました。

今、彼は「自分のような立場におかれた人たちのために、何か役に立ちたい」と、教える側としてCEMLAに指導に来てくれています。



学習支援の様子

## 多文化教育コーディネーター派遣制度ってなに？



外国につながる生徒が高校生活をスムーズに始め、継続していくのはなかなかたいへんなことです。そこで、在県枠のある高校（横浜商業を除く）に加えて定時制4校（磯子工業・希望ヶ丘・湘南・横浜翠嵐）と通信制1校（横浜修悠館）・クリエイティブスクール2校（釜利谷・田奈）の合計16校に、多文化教育コーディネーターが派遣されています。

コーディネーターは各校の状況を把握して必要な支援を組み立てます。たとえば、日本語学習歴1年未満の生徒には、入学者説明会での母語通訳者の派遣、生徒への母語による聞き取り、放課後の日本語・教科補習、授業への母語話者による入り込み支援などが必要に応じて行われます。支援者を高校に配置するほか、コーディネーターは外国につながる生徒の居場所づくり、文化祭での表現活動のサポート、進路支援などを行い、生徒の高校生活を支えています。

# 志望校調査票のハードル



## 大きい情報格差 乗り越えるには

日本の高校入試では、生徒が勉強をがんばるだけでなく、保護者がさまざまな情報を集めたり、学校や塾で相談したりしながら、生徒と保護者が一緒に乗り越えることが一般的です。しかし、保護者が外国出身であると、日本の教育制度を理解するのは難しく、インターネットや市販の（入試）ガイドブックなどからの情報を得るのも困難で情報源が限られてしまうため、生徒にとって、先生や支援者の関わりはとても重要です。

ときに、外国人保護者の言動が、教育に無関心なように感じられることがあるかもしれません。わからないことを日本語でたずねるのが難しかったり、どう関わってよいかわからなかったりする場合もあります。そんなときには、多言語で対応している外国人教育相談窓口を紹介するのもひとつの方法です。

◆あーすぷらざ外国人教育相談 TEL：045-896-2970

◆かながわ外国人教育相談 TEL：045-222-1209

● 外国につながる生徒への進路指導のポイント

## サポートで、母も私も前向きになれたから



ペルーで小学校2年が終わった1月の夏休み、母が突然「パパに会いに行こう」と言って私と兄を連れ日本に来ました。日本語が全く話せず、心の準備もないまま、日本の小学校に入りました。来日してから数年は「いずれペルーに帰るのだから」と日本語を勉強する気になりませんでした。しかし、帰国しないことがだんだんわかってきて、友だちとも話せるようになりたくて、日本語の勉強を始めました。

中学に入ると授業はどんどん難しくなり、テストの点数を見ると悲しい気持ちになりました。不況で父の仕事が減って母も働き始めたので、弟や妹の面倒をみるために学校を休んでいたら勉強はもっとわからなくなりました。高校に行けないかもしれないと思いました。両親は「ペルーの高校に入ればいい」と言いましたが、旅費を考えると無理でした。そんな時、国際教室や日本語指導、学習支援の先生たちが、私に合った高校を探して進学説明会や高校見学に連れていってくれたのです。日本の高校について何も知らず、定時制高校への進学に反対していた母も、三者面談で高校生活や学費、卒業後の進路についてスペイン語で詳しく説明してもらってからは、応援してくれるようになりました。それから私は変わりました。勉強や入試でわからないことがあると先生をつかまえて質問しました。面接練習も何回もお願いし、無事合格することができました。

高校に入学してからは昼間働くと疲れてしまって、夕方から学校に行くのは辛かったです。高校を辞めてしまった友だちもたくさんいます。学校に行くより仕事をしてお金をもらった方がいいと考えるようです。でも私は大好きな母に「必ず卒業する!」と約束したのと、高卒の方がもっと自分の可能性が広がると考えてがんばりました。いつも励ましてくれて、時には本気で叱ってくれた高校の先生方には心から感謝しています。私は高校卒業後、保育士をめざし専門学校に進学することになりました。資格が取れるまで道は険しいですが、これからは人に甘えず自分の力で夢の実現のためにがんばろうと心に決めました。

私の周りにも勇気を出して「助けて」と言えず、親にも相談できない子がたくさんいます。そんな子たちに「大丈夫?」と声をかけてくれる人がいたら、その子たちの未来が変わってくると思います。そんな子たちが自信をもって歩き始めることができるように、力を貸してあげてください。それが私からのお願いです。

# 「面接シートに書くことない…」



## 外国に“つながること”に目をむける

面接シートは、基本的に生徒自身が自分で書いてくるものですが、外国につながる生徒の場合、日本語で文章を書くという難しさに加え、家族のサポートを得にくいため、面接シートの記入はよりいっそう困難な作業です。提出しないのはやる気がないからと誤解しがちですが、そうとは限らないことを念頭におきましょう。

日本語が十分にできないことなどから自信を失っていると、「中学校でがんばったこと」や「自分の長所」が思い浮かびにくいということも考えられます。部活動をしていない場合は、学外のことにも目を向けます。地域で開催する母国の文化行事、国際交流行事、または家族の通訳サポートをした体験などがあるかもしれません。外国につながるからこそ“できること”“やってきたこと”がないか、一緒に考えてみてください。

## 「自分の道を歩き出す」面接指導のよろこび

面接シートを書こうとしても、外国につながるの生徒の大部分が文章を一人では書けないでしょう。そんなときは、生徒ではなく、先生がペンと白い紙をもって、一緒におしゃべりをします。その子のトツトツと話す単語を書き取り、キーワードの樹木のような“マインドマップ”をつくります。それぞれのキーワードからさらに枝分かれさせると、話題はさらに広がります。いくつかの枝ができ、1つの大きな樹木になって話題が広がったら、流れをつくります。話す順序を一緒に考え、樹木の枝葉に番号を振ります。そこまで考えがまとまれば、生徒はマインドマップを見ながら流れにそって話をする事ができます。自力で書ける生徒は書かせますが、書くことが難しい場合はその生徒が語る言葉を書き写してあげます。生徒はアイデアがないから書けないのではなく、文章という形にできないだけかもしれないのです。

外国につながるの生徒は、異文化の日本で暮らしてきた経験や、生まれ育った背景そのものが個性的で物語があります。進路指導においては、これらの苦労や努力の過程こそが最大の強みです。「何歳のときに、日本に来たの?」「どうやって日本語を覚えたの?」「母国ではどんな遊びが好きだった?」一人ひとりが語る言葉をもっているはず。

「5年後、あなたは何をしている?」「10年後はどう? 結婚していると思う? どの国の人と?」「15年後は?」面接練習を通して初めて、親に連れてこられたという受け身の人生から、自分で歩き出す準備が始まります。

「あなたのことを知りたいよ」「すごくがんばってきただね」面接指導ではそんなメッセージをストレートに伝えることができます。将来のことをその子が前向きに考えるように変わっていく。面接指導は生徒の成長を一番身近に感じられる指導です。私はこの時期の3年生の指導が好きです。



# 「働く」「帰国」なら、 進路指導はしなくていい？



## 生徒の言葉の背景には

面談で、「(いつか) 帰国するから (進学しない)」「定時制行くなり働く」という生徒に出会ったことがあるのではないのでしょうか。しかし、日本で暮らす外国人の定住化が進んでいるのが現状です。外国につながる生徒が、中学卒業後も日本で生活していくことを念頭に入れ、進路指導をする必要があります。

また、「働く」といわれると、外国人の場合は知り合いの“つて”があるのだろう…と考えてしまいがちですが、厚生労働省の調査では、派遣や請負など不安定な雇用状況で就労している割合が高いことがわかっています。

生徒たちは、日本語や勉強ができないことでやる気や自信をなくして投げやりになっていたり、家計を助けるために進学を諦めたりしている場合があります。生徒の言葉には背景があるのではないのでしょうか。



### 中3担任は「最後のセーフティネット」

中学校を卒業してすぐに働くといっても、この就職難の時代、とても難しいということは、中3を担当してハローワークに行ったことのある先生ならご存じのとおりです。日本人の多くは中学卒業後、縁故や紹介などで就職するのが一般的です。外国人の中卒生が働くところ、どんなところを想像しますか？ コンビニやスーパーなどのアルバイト？ それとも「外国人つながりで、何かアテでもあるのかな？」もしそれが、外国人が数多く働いている職場だとしたら、それは、給料が安いまたは安定せず、3K（キツイ・キタナイ・キケン）な職場であることが多いのです。「高校に行かないで働きます」という生徒には、「会社の名前は？ どこにあるの？」と問いかけてみましょう。もう一歩つつこんで、「先生、その会社の人にあいさつしたいから、今度連れて行って」というと、子どもたちは本音を話し始めるかもしれません。「親に働けていわれてるけど、実際どこで働いたらいいかわかんないし（つまり決まっていない）、親父と一緒に会社だったら給料安くてこきつかわれるし」「本当は高校に行きたいんだ、定時制でもいいから…」

また、「帰国するので高校は行きません」という生徒には、「帰国したらその後は進学するのか。するなら書類は何か必要か」と、あと一歩つつこんだ質問をしてみましょう。日本に長く滞在していた生徒なら、母語が不十分である場合が多く、母国での進学も就職も困難を極めることが多いです。母国の教育事情や就職の状況の情報収集、保護者とのやりとりが必要になってきます。母国での生活が軌道に乗らず、結局は再来日するというパターンも多いです。

「外国人だから、しょうがない」「外国人だから、日本人とはちがうから厳密にやらなくてよいだらう」という考えに疑問をもちましょう。出身はどこでも、どこの国につながっていようとも、子どもは同じく教育を受ける権利と、自分の進みたい進路に進む権利をもっています。それが「外国人だから…」という理由で疎外されている可能性があるのです。指導要録様式1の進学先・就職先に日本人と同じようにきちんと学校名や会社名を記すべきではないでしょうか。

中学3年の担任の先生は、困難な生徒にとって最後のセーフティネットです。もう一歩、あと一歩の踏み込みで、助けられる子どもがいることを忘れないでほしいです。



# 外国につながる生徒の 支援・お助けリソースガイド

## 神奈川県教育委員会

### 神奈川県公立高等学校入学選抜制度について

(募集案内、ガイドブック、高校進学ガイダンスなどについての情報)

◎ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f160600>

## 外国人教育相談など

### 神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）情報フォーラム

(外国人相談窓口や外国につながる子どもの教育に関する資料があります)

◎ [http://www.earthplaza.jp/info\\_list](http://www.earthplaza.jp/info_list)

### NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net)

(外国人教育相談、高校進学ガイダンスなど、外国につながる子どもの支援活動を行っています)

◎ <http://www15.plala.or.jp/tabunka>

## 神奈川県

### かながわ一般通訳支援事業

◎ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f3530>

## 愛知県

### 「外国につながる子どもたちの進路開拓・進路応援ガイドブック」

◎ <http://www.pref.aichi.jp/000060439.html>

## 文部科学省

### 「外国人児童生徒受け入れの手引き」

◎ [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm)

「かすたねっと」(学習支援のための教材・文書検索サイト)

◎ <http://www.casta-net.jp>

## ルビ振りのツール

ワープロソフト「一太郎」(学年別漢字配当表に基づいてルビを振る機能があります)

◎ <http://support.justsystems.com/faq/1032/app/servlet/qadoc?QID=031572>

※2014年3月5日現在

# (公財) かながわ国際交流財団の関連事業

財団では、外国につながる子ども支援のために、県・市町村教育委員会や NGO/NPO と連携して事業を行っています。

ホームページ ▶ <http://www.kifjp.org>

## 報告書・ガイドブック・リーフレット

送付を希望する場合は、財団にお問い合わせください。

財団のホームページからダウンロードもできます。

### ◆ 支援者向けガイドブック



◀ 「日本生まれの外国につながる子どもたち」



◀ 「外国につながる子どもがホッとする授業づくり」



「外国につながる子どもの未来を支えるために」▶



### ◆ 『やさしい日本語でコミュニケーション』▶

外国人にわかりやすく情報を伝えるポイントの紹介

## ホームページでの情報提供

### ◆ かながわ・こみゆにてい・ねっとわーく・さいと

外国人住民の暮らしに役立つ情報、外国人支援や多文化共生に関するポータルサイト

### ◆ かながわ日本語教室・学習補習教室・母語教室マップ

県内で日本語や教科、母語を学べる教室の紹介



あるあるマンガでよむ

## 外国につながる生徒の高校進学サポートガイド ～困ったときの10のヒント

発行:  公益財団法人 **かながわ国際交流財団**  
Kanagawa International Foundation

2014年3月 発行

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8第一安田ビル4階

TEL ▶ **045-620-0011** FAX ▶ **045-620-0025**

メールアドレス ▶ **tabunka@kifjp.org**

ホームページ ▶ **http://www.kifjp.org**

\* (公財) かながわ国際交流財団は、「持続可能な多文化共生の地域社会かながわの基盤づくり」の取り組みを進めるため、多文化共生・NGO協働推進センター（横浜市神奈川区）を拠点に、県内の自治体、NGO/NPO等と連携・協働して、県内各地でさまざまな公益事業を実施しています。

検討委員：熱海まき子（横浜市立港中学校）／大谷千晴（平塚市立旭陵中学校）

高橋清樹（NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ）／土屋隆史（横浜市立鶴見中学校）

富本潤子（公益財団法人かながわ国際交流財団）／冨江真弓（公益財団法人かながわ国際交流財団）

協 力：大野彰（神奈川県立湘南高等学校校定時制）

武一美（NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ）

マ ン ガ：たかおかおり

デザイン：田中律子

編集協力：山家直子